

●地域貢献事業の推進

本学は、様々な地方公共団体や各種団体と連携して地域貢献事業を行っています。

平成20年4月1日付けで設置した「野生動物研究センター」では、野生動物に関する教育研究を通じて、地球社会の調和ある共存に貢献するため、野生の現場だけではなく、野生ではもはや出会うことすら困難な希少種が暮らす動物園や民間の研究機関と連携することとしました。平成20年4月に京都市と連携に関する協定を締結し、京都市動物園に新類人猿舎が設置され、同センターの教員が常駐して実験・研究を行っています。さらに、平成20年6月には名古屋市とも同様の協定を締結し、東山動物園において、飼育下でのチンパンジーの群れを再編する試みなどの取り組みを実施しました。このように、大学と動物園とが連携して野生動物の保全と共生に向けた取り組みを行っています。

また、気候変動や地球温暖化問題に関して、平成20年6月に国際部が中心となり、一般市民も参加する形で、ケビン・ラッドオーストラリア首相を迎えての講演会およびパン・ギムン国連事務総長を迎えての京都タウンミーティングを開催しました。

ともに多数の参加者があり、地球温暖化問題等について、海外の指導者から貴重なメッセージが参加者に伝えられました。

●公開施設

和歌山県西牟婁郡白浜町にある瀬戸臨海実験所水族館は、博物館相当施設の指定を受けて一般に公開している水族館です。

また、総合博物館では、標本資料等による常設展示のほか、春秋の企画展示などを通して本学の学術資料を広く社会に公開しています。このほか、附属図書館や大学文書館による企画展等を開催しています。

●環境報告書と環境への取り組み

本学は、平成18事業年度より、環境報告書を作成し公表しています。本報告書では、広範囲の環境データを公開しており、本報告書に掲載されているエネルギー使用量やコピー紙使用量などの削減については、環境負荷の軽減のみならず、大学の財務改善にもプラスの効果が得られると期待されています。

また、平成20事業年度は、省エネルギーおよび温室効果ガス削減を目的とした「京都大学環境賦課金」制度をスタートさせました。併せて、省エネルギー化の推進による環境負荷の低減ならびに光熱水費の効率的な削減を図ることを目的としたESCO事業を展開するため、民間企業に対し広く事業提案を求め、平成21年4月1日より吉田キャンパスにおいて新たなESCO事業が開始されました。



京都市との連携により設置された京都市動物園の新類人猿舎の様子

●生涯学習の機会の提供

平成20事業年度は、「京都大学市民講座」や「京都大学春秋講義」といった京都大学主催の公開講座の他、部局の主催する「最先端科学の体験型学習講座」や「高校生のための化学」等の公開講座を20件以上開催しました。その他、中学生向けのジュニアキャンパスやシニアの方を対象としたシニアキャンパス、こどもからおとなまで家族で楽しく学べる「夏休み学習教室 体験EXPO」等、より多くの皆様に学習の機会を提供するよう努めています。

平成20年11月には、本学のジュニアキャンパス事業が、先端の研究や本物の学問に触れる機会を多くの生徒・保護者に提供し、大学で学ぶことへの興味・関心を高め、将来の夢や目標の実現に向けた意欲の向上に寄与したとして、京都市から教育功労表彰を受章しました。

入場料収入

(単位:百万円)

区分	18年度	19年度	20年度
瀬戸臨海実験所水族館	26	28	28
総合博物館	7	6	5
計	33	34	33

入場者数

(単位:人)

区分	18年度	19年度	20年度
瀬戸臨海実験所水族館	61,413	65,763	66,411
総合博物館	38,223	36,070	37,178



平成20年9月に公表した「京都大学環境報告書2008」

※ESCO (Energy Service Companyの略。エスコと読む) 事業とは、工場やビルの省エネルギーに関する包括的なサービスを提供し、それまでの環境を損なうことなく省エネルギーを実現し、さらにはその結果得られる省エネルギー効果を保証する事業です。